+

特定非営利活動法人　境を越えて

日本財団助成事業

地域生活の視点で学ぶ重度身体障がい者の暮らし－「地域で暮らす」を覗いてみよう実施報告

目次

[Ⅰ．はじめに 4](#_Toc162276992)

[Ⅱ．活動報告 4](#_Toc162276993)

[1.会議録 4](#_Toc162276994)

[第1回会議 4](#_Toc162276995)

[第2回会議 4](#_Toc162276996)

[第3回会議 4](#_Toc162276997)

[第4回会議 5](#_Toc162276998)

[第5回会議 5](#_Toc162276999)

[第6回会議 5](#_Toc162277000)

[第7回会議 6](#_Toc162277001)

[第8回会議 6](#_Toc162277002)

[第9回会議 6](#_Toc162277003)

[第10回会議 7](#_Toc162277004)

[第11回会議 7](#_Toc162277005)

[第12回会議 7](#_Toc162277006)

[第13回会議 7](#_Toc162277007)

[第14回会議 8](#_Toc162277008)

[第15回会議 8](#_Toc162277009)

[第16回会議 8](#_Toc162277010)

[第17回会議 9](#_Toc162277011)

[第18回会議 9](#_Toc162277012)

[第19回会議 9](#_Toc162277013)

[第20回会議 10](#_Toc162277014)

[第21回会議 10](#_Toc162277015)

[第22回会議 10](#_Toc162277016)

[第23回会議 10](#_Toc162277017)

[第24回会議 11](#_Toc162277018)

[第25回会議 11](#_Toc162277019)

[第26回会議 11](#_Toc162277020)

[第27回会議 12](#_Toc162277021)

[第28回会議 12](#_Toc162277022)

[第29回会議 12](#_Toc162277023)

[第30回会議 12](#_Toc162277024)

[第31回会議 13](#_Toc162277025)

[第32回会議 13](#_Toc162277026)

[第33回会議 13](#_Toc162277027)

[第34回会議 14](#_Toc162277028)

[第35回会議 14](#_Toc162277029)

[第36回会議 14](#_Toc162277030)

[第3７回会議 15](#_Toc162277031)

[第38回会議 15](#_Toc162277032)

[第39回会議 15](#_Toc162277033)

[第40回会議 15](#_Toc162277034)

[第41回会議 16](#_Toc162277035)

[第42回会議 16](#_Toc162277036)

[第43回会議 16](#_Toc162277037)

[第44回会議 17](#_Toc162277038)

[会議のまとめ 17](#_Toc162277039)

[2.カリキュラムの実施 17](#_Toc162277040)

[帝京平成大学 17](#_Toc162277041)

[日本医療大学 19](#_Toc162277042)

[東北文化学園大学 21](#_Toc162277043)

[杏林大学 24](#_Toc162277044)

[カリキュラム実施のまとめ 27](#_Toc162277045)

[3.ネットワーク拡大説明会 27](#_Toc162277046)

[後援：DPI日本会議 27](#_Toc162277047)

[後援：全国自立生活センター（JIL） 27](#_Toc162277048)

[ネットワーク拡大説明会実施のまとめ 28](#_Toc162277049)

[Ⅲ．まとめ 28](#_Toc162277050)

# Ⅰ．はじめに

本報告は、“地域生活の視点で学ぶ重度身体障がい者の暮らし”カリキュラム拡大のための仕組み作りで実施した①講師、見学・体験受け入れ当事者増員のための説明会と勉強会の開催　②モデルカリキュラムの実施と連携構築③カリキュラム開催ノウハウのパッケージ化の内容についてまとめたものである。

# Ⅱ．活動報告

## 1.会議録

第1回会議

1. 概要  
   日　付：2023年4月14日

方　法：zoom

参加者：江口健司、清水仁美、彦田友香、櫻井こずえ、本間里美

1. 内容要旨  
   新講師(清水、彦田)の講義内容検討及び練習
2. 詳細内容

帝京平成大学での講義『介助の視点』の担当者である新講師を対象に、テキスト作成に携わった現講師や事務局メンバーからカリキュラムの情報共有及び、講義資料や実施に向けたアドバイスをしたり、参加者同士で意見交換を行った。

第2回会議

1. 概要  
   日　付：2023年4月30日  
   方　法：zoom  
   参加者：清水仁美、彦田友香
2. 内容要旨

新講師 (清水、彦田) の講義内容検討及び練習

1. 詳細内容  
   第1回に引き続き帝京平成大学での講義『介助の視点』の授業内容を検討した。講義内での担当の割り振りや実施内容の検討を行った。

第3回会議

1. 概要  
   日　付：2023年5月8日  
   方　法：zoom  
   参加者：清水仁美、彦田友香
2. 内容要旨  
   新講師(清水、彦田)の講義内容検討及び練習
3. 詳細内容  
   前回の模擬授業へのアドバイスを受けて修正した帝京平成大学での講義『介助の視点』の模擬授業について参加者が意見交換し、内容を検討、講義練習を行った。

第4回会議

1. 概要  
   日　付：2023年5月8日

方　法：zoom

参加者：江口健司、長田直也、千葉早耶香、本間里美

1. 内容要旨

新規の実施大学について講義内容の検討

1. 詳細内容

杏林大学医学部でのカリキュラム実施に向けて対象の学生に関する情報共有や、カリキュラムの実施時間の短縮に伴う講義の時間割及び講義内容の修正に関して参加者で意見交換を行った。時間割を作成し、担当講師の割り振りを行った。

第5回会議

1. 概要

日　付：2023年5月11日

方　法：zoom

参加者：阿形志穂、千田香、長田直也、千葉早耶香、本間里美、櫻井こずえ

1. 内容要旨

新講師（千田）の講義練習

1. 詳細内容

帝京平成大学での講義『地域で支える』担当の新講師が模擬授業を行った。それに対してテキスト作成に携わった現講師や事務局メンバーから新講師にアドバイスをし、参加者同士で意見交換会を実施した。

第6回会議

1. 概要

日　付：2023年5月12日

方　法：zoom

参加者：江口健司、長田直也、清水仁美、彦田友香、千葉早耶香、本間里美

1. 内容要旨

新講師（清水・彦田）の講義練習

1. 詳細内容

帝京平成大学での講義『介助の視点』担当の新講師が模擬授業を行った。それに対してテキスト作成に携わった現講師や事務局メンバーから新講師にアドバイスをし、参加者同士で意見交換会を実施した。講義内容及び投影の資料の修正を行った。

第7回会議

1. 概要

日　付：2023年5月15日

方　法：zoom

参加者：長田直也、千田香、鹿野咲、寺田基、本間里美

1. 内容要旨

新講師（鹿野）の講義練習

1. 詳細内容

日本医療大学での講義『地域で支える』担当の新講師が模擬授業を行った。それに対してテキスト作成に携わった現講師や事務局メンバーから新講師にアドバイスをし、参加者同士で意見交換会を実施した。新講師の経験など個別的な内容が少なかったため、再度講義内容を検討し、再練習をすることとなった。

第8回会議

1. 概要

日　付：2023年5月17日

方　法：zoom

参加者：吉澤卓馬、長田直也、見原美夏、寺田基、千葉早耶香、本間里美

1. 内容要旨

新講師（寺田）の講義練習

1. 詳細内容

日本医療大学での講義『コミュニケーション』担当の新講師がの模擬授業を行った。それに対してテキスト作成に携わった現講師や事務局メンバーから新講師にアドバイスをし、参加者同士で意見交換会を実施した。コミュニケーション機器体験の実施方法についても検討した。

第9回会議

1. 概要

日　付：2023年5月22日

方　法：zoom

参加者：長田直也、吉沢祐輔、櫻井こずえ、千葉早耶香、本間里美

1. 内容要旨

新講師（吉沢）の講義練習

1. 詳細内容

帝京平成大学での講義『地域で暮らす』担当の新講師が模擬授業を行った。それに対してテキスト作成に携わった現講師や事務局メンバーから新講師にアドバイスをし、参加者同士で意見交換会を実施した。

第10回会議

1. 概要

日　付：2023年5月24日

方　法：zoom

参加者：長田直也、阿形志穂、秀真緒、櫻井こずえ、千葉早耶香、本間里美

1. 内容要旨

新講師（阿形）の講義練習

1. 詳細内容

帝京平成大学での講義『医療の視点』担当の新講師が模擬授業を行った。それに対してテキスト作成に携わった現講師や事務局メンバーから新講師にアドバイスをし、参加者同士で意見交換会を実施した。

第11回会議

1. 概要

日　付：2023年5月28日

方　法：zoom

参加者：清水仁美、彦田友香、

1. 内容要旨

新講師（清水・彦田）の講義練習

1. 詳細内容

帝京平成大学での講義『介助の視点』の講義練習を行い、互いに意見交換会した

第12回会議

1. 概要

日　付：2023年5月29日

方　法：zoom

参加者：長田直也、阿形志穂、寺田基、秀真緒、千葉早耶香、櫻井こずえ、本間里美

1. 内容要旨

新講師（秀）の講義練習

1. 詳細内容

日本医療大学での講義『医療の視点』担当の新講師が模擬授業を行った。それに対してテキスト作成に携わった現講師や事務局メンバーから新講師にアドバイスをし、参加者同士で意見交換会を実施した。

第13回会議

1. 概要

日　付：2023年5月31日

方　法：zoom

参加者：長田直也、及川智也、千葉早耶香、櫻井こずえ、本間里美

1. 内容要旨

新講師（及川）の講義練習

1. 詳細内容

東北文化大学での講義『障害って何？』担当の新講師が模擬授業を行った。それに対してテキスト作成に携わった現講師や事務局メンバーから新講師にアドバイスをし、参加者同士で意見交換会を実施した。

第14回会議

1. 概要

日　付：2023年5月31日

方　法：zoom

参加者：吉澤卓馬、長田直也、見原美夏、千葉早耶香、櫻井こずえ、本間里美、

1. 内容要旨

新講師（見原）の講義練習

1. 詳細内容

帝京平成大学での講義『コミュニケーション』の模擬授業を行う。それに対してテキスト作成に携わった現講師や事務局メンバーから新講師にアドバイスをし、参加者同士で意見交換会を実施した。

第15回会議

1. 概要

日　付：2023年6月1日

方　法：zoom

参加者：金成葉月、千葉早耶香、本間里美、

1. 内容要旨

新講師（金成）の講義練習

1. 詳細内容

帝京平成大学・杏林大学での講義『学生介助者経験談』の模擬授業を行う。事務局メンバーから新講師にアドバイスをし、参加者同士で意見交換会を実施した。講義で使用する投影資料を修正した。

第16回会議

1. 概要

日　付：2023年6月5日

方　法：zoom

参加者：小田瞳、櫻井こずえ、千葉早耶香、本間里美

1. 内容要旨

現講師（千葉）の新規実施大学講義内容検討

1. 詳細内容

杏林大学での講義『医療の視点』の講義内容を検討した。現講師がこれまでに実施した講義を基に作成した新たな内容を共有し、事務局メンバーからアドバイスをし、参加者同士で意見交換会を実施した。

第17回会議

1. 概要

日　付：2023年6月7日

方　法：zoom

参加者：長田直也、及川智、佐藤順子、千葉早耶香、本間里美、櫻井こずえ

1. 内容要旨

新講師（佐藤）の講義練習

1. 詳細内容

東北文化大学での講義『暮らす』の模擬授業を行う。それに対してテキスト作成に携わった現講師や事務局メンバーから新講師にアドバイスをし、参加者同士で意見交換会を実施した。

第18回会議

1. 概要

日　付：2023年6月12日

方　法：zoom

参加者：小田瞳、千葉早耶香、本間里美、櫻井こずえ

1. 内容要旨

新規実施大学である杏林大学での講義内容についての検討

1. 詳細内容

杏林大学での講義の実施内容について参加者同士で意見交換会を実施した。

第19回会議

1. 概要

日　付：2023年6月19日

方　法：zoom

参加者：千葉早耶香、本間里美

1. 内容要旨

新規実施大学である杏林大学での講義内容についての検討

1. 詳細内容

これまでの会議で検討した講義内容を統合し、事務局メンバーの担当割り振りなどを行った。

第20回会議

1. 概要

日　付：2023年6月19日

方　法：zoom

参加者：吉澤卓馬、長田直也、向山夏奈、鹿野咲、千葉早耶香、本間里美

1. 内容要旨

現講師（吉澤）の新規実施大学での講義に向けた内容の検討

1. 詳細内容

新規実施大学である杏林大学での講義『コミュニケーション』について現講師が修正した講義内容を共有した。それに対して、参加者同士で意見交換会を実施した。

第21回会議

1. 概要

日　付：2023年6月26日

方　法：zoom

参加者：吉澤卓馬、長田直也、向山夏奈、千葉早耶香、本間里美、櫻井こずえ

1. 内容要旨

現講師（長田）の新規実施大学での講義に向けた内容の検討

1. 詳細内容

新規実施大学である杏林大学での講義『インクルーシブ』について現講師が修正した講義の練習会を実施した。それに対して参加者同士で意見交換会を実施した。

第22回会議

1. 概要

日　付：2023年6月2８日

方　法：zoom

参加者：長田直也、小田瞳、千葉早耶香、本間里美

1. 内容要旨

現講師（長田）の講義練習

1. 詳細内容

新規実施大学である杏林大学での講義『地域で暮らす』について現講師が修正した講義の練習会を実施した。それに対して参加者同士で意見交換会を実施した。

第23回会議

1. 概要  
   日　付：2023年7月10日  
   方　法：zoom  
   参加者：吉沢祐輔、千葉早耶香、本間里美
2. 内容要旨  
   新講師（吉沢）の講義練習
3. 詳細内容  
   帝京平成大学での講義『地域で暮らす』の模擬授業を行った。それに対して事務局メンバーから新講師にアドバイスをし、参加者同士で意見交換会を実施した。

第24回会議

1. 概要

日　付：2023年7月11日

方　法：zoom

参加者：吉澤卓馬、寺田基、千葉早耶香、本間里美

1. 内容要旨

新講師（寺田）の講義練習

1. 詳細内容  
   日本医療大学での講義『コミュニケーション　』の模擬授業を行う。前回の練習会を踏まえて修正した講義内容について練習会を実施した。それに対して参加者同士で意見交換会を実施した。また、コミュニケーション機器体験についての情報共有を行った。

第25回会議

1. 概要  
   日　付：2023年7月14日  
   方　法：zoom  
   参加者：吉澤卓馬、向山夏奈、江口健司、長田直也、阿形志穂、千葉早耶香、本間里美、櫻井こずえ
2. 内容要旨  
   今年度のカリキュラムプロジェクトの開催にあたり、講師陣の顔合わせや全体打ち合わせ
3. 詳細内容  
   これまでの新講師・現講師による授業内容の検討及び練習会の実施を受けて、事務局メンバーより、講師らへ情報共有を行った。

第26回会議

1. 概要  
   日　付：2023年7月19日  
   方　法：zoom  
   参加者：長田直也、千田香、鹿野咲、千葉早耶香、本間里美
2. 内容要旨  
   新講師（鹿野）の講義練習
3. 詳細内容  
   日本医療大学での講義『地域で支える』について、前回の練習会を受けて修正した内容での模擬授業を行った。それに対してテキスト作成に携わった現講師や事務局メンバーから新講師にアドバイスをし、参加者同士で意見交換会を実施した。

第27回会議

1. 概要  
   日　付：2023年7月19日  
   方　法：zoom  
   参加者：清水仁美、彦田友香
2. 内容要旨  
   新講師の講義練習
3. 詳細内容  
   帝京平成大学での講義『介助の視点』の模擬授業を行い、意見交換をした。

第28回会議

1. 概要

日　付：2023年7月24日

方　法：zoom

参加者：長田直也、千葉早耶香、本間里美

1. 内容要旨新講師の講義練習
2. 詳細内容

杏林大学での講義『医療の視点』の模擬授業を行った。それに対してテキスト作成に携わった現講師や事務局メンバーから新講師にアドバイスをし、参加者同士で意見交換会を実施した。

第29回会議

1. 概要  
   日　付：2023年8月21日

方　法：zoom  
参加者：鹿野咲、本間里美

1. 内容要旨  
   新講師の講義練習
2. 詳細内容  
   日本医療大学での講義『地域で支える』の講義について新講師と現講師による内容の改善に向けた検討を実施した。

第30回会議

1. 概要  
   日　付：2023年9月20日  
   方　法：zoom  
   参加者：佐藤順子、長田直也、千葉早耶香、本間里美
2. 内容要旨  
   新講師（佐藤）の講義練習
3. 詳細内容  
   東北文化大学での講義『地域で暮らす』の模擬授業を行った。それに対してテキスト作成に携わった現講師や事務局メンバーから新講師にアドバイスをし、参加者同士で意見交換会を実施した。投影資料について新講師と事務局メンバーで内容を検討し修正した。

第31回会議

1. 概要  
   日　付：2023年10月6日  
   方　法：zoom  
   参加者：長田直也、千葉早耶香、本間里美、櫻井こずえ
2. 内容要旨  
   現講師（長田）の講義練習
3. 詳細内容  
   杏林大学での講義『障害って何？』の模擬授業を行う。講義時間の短縮や対象の学部の変更にともなう講義内容を修正について事務局メンバーからアドバイスをし、参加者同士で意見交換会を実施した。

第32回会議

1. 概要

日　付：2023年10月19日  
方　法：zoom  
参加者：吉澤卓馬、安斎敬太、千葉早耶香、本間里美

1. 内容要旨

現地の担当者（安斎）との打ち合わせ

1. 詳細内容  
   東北文化大学での講義『コミュニケーション』について、現地の担当者による模擬授業を行った。それに対してテキスト作成に携わった現講師や事務局メンバーから新講師にアドバイスをし、参加者同士で意見交換会を実施した。

第33回会議

1. 概要

日　付：2023年10月20日

方　法：zoom

参加者：長田直也、佐藤順子、千葉早耶香、本間里美

1. 内容要旨

新講師の講義練習

1. 詳細内容  
   東北文化大学での講義『地域で暮らす』の模擬授業を行う。それに対してテキスト作成に携わった現講師や事務局メンバーから新講師にアドバイスをし、参加者同士で意見交換会を実施した。

第34回会議

1. 概要

日　付：2023年10月23日

方　法：zoom

参加者：向山加奈、増田英明、長谷川唯、櫻井こずえ、千葉早耶香、本間里美

1. 内容要旨  
   京都府立大学カリプロの事前打ち合わせ
2. 詳細内容  
   新規実施大学である京都府立大学での講義内容および実施方法についての検討を行った。

第35回会議

1. 概要  
   日　付：2023年10月25日

方　法：zoom

参加者：千葉早耶香、本間里美

1. 内容要旨  
   東北文化学園大学カリプロの事前説明会
2. 詳細内容  
   東北文化学園大学でのカリキュラム開催に向けて、大学教員および参加の学生を対象とした説明会を実施した。

第36回会議

1. 概要  
   日　付：2023年10月30日  
   方　法：zoom  
   参加者：和知佑里奈、橋本みも、池澤美月、櫻井こずえ、本間里美
2. 内容要旨  
   新ファシリテーター打ち合わせ
3. 詳細内容  
   東北文化学園大学でのカリキュラム実施に向けて、グループワークのファシリテーター担当者に向けて、現講師や事務局スタッフからワークの進行や発表などについてレクチャーを行い、担当者からの質問に回答した。

第3７回会議

1. 概要  
   日　付：2023年11月27日  
   方　法：zoom  
   参加者：長田直也、千葉早耶香、本間里美
2. 内容要旨  
   来年度実施するカリキュラム内容についての検討
3. 詳細内容  
   今年度実施したカリキュラムについての振り返り及び、来年度以降の講義内容や実施方法に関しての検討を行った。

第38回会議

1. 概要  
   日　付：2023年12月18日  
   方　法：zoom  
   参加者：千田香、高橋淳平、江口健司、吉澤卓馬、長田直也、阿形志穂、向山夏奈、千葉早耶香、岡部宏生、櫻井こずえ、本間里美、川崎彩恵
2. 内容要旨

今年度カリキュラムの振り返りおよび、来年度実施についての情報共有

1. 詳細内容

今年度カリキュラム実施内容について参加の学生や当事者らからのアンケート結果の共有、新講師による振り返りを行った。来年度以降の実施に向けて学習目標の修正や、カリキュラム実施の方法（特にグループワークの方法など）について意見交換を実施した。また、来年度の新規実施大学の教員による情報共有を行った。

第39回会議

1. 概要

日　付：2023年12月27日

方　法：zoom

参加者：千葉早耶香、本間里美

1. 内容要旨  
   来年度実施大学に関する打ち合わせ
2. 詳細内容  
   前回会議での今年度の振り返り及び内容の改善について再度確認し、カリキュラムの改善に関する検討を行った。来年度、新規に実施する大学の情報共有及び時間割の検討、担当講師の割り振りを行った。

第40回会議

1. 概要

日　付：2024年1月15日

方　法：zoom

参加者：江口健司、吉澤卓馬、長田直也、千葉早耶香、岡部宏生、本間里美

1. 内容要旨  
   新規実施内容についての打ち合わせ
2. 詳細内容  
   東京都介護福祉会により、カリキュラムの開催を依頼されたため、現職の介護士を対象とした講義内容及び時間割についての検討を行った。

第41回会議

1. 概要

日　付：2024年1月22日

方　法：zoom

参加者：長田直也、櫻井こずえ、岡部宏生、本間里美

1. 内容要旨

鹿児島の当事者及び支援者に対して、カリキュラムの説明と協力依頼をした。

1. 詳細内容

カリキュラム実施対象の拡大に向けて、鹿児島で地域生活を送る当事者及び支援者に対して、カリキュラムの内容やこれまでの実績を説明し、鹿児島での開催の検討と見学体験に関する協力を依頼した。

第42回会議

1. 概要

日　付：2024年2月1日

方　法：zoom

参加者：長田直也、川崎彩恵、本間里美

1. 内容要旨  
   東京の当事者及び支援者に対して、カリキュラムの説明と協力依頼をした。
2. 詳細内容  
   カリキュラム実施対象の拡大に向けて、東京で地域生活を送る当事者を支援している事業所の所長へ、カリキュラムの内容やこれまでの実績を説明し、今後のカリキュラムにおける見学体験に関する協力を依頼した。

第43回会議

1. 概要

日　付：2024年2月5日

方　法：zoom

参加者：長田直也、櫻井こずえ、岡部宏生、本間里美

1. 内容要旨  
   今年度の振り返り
2. 詳細内容  
   カリキュラム実施対象の拡大に向けて、沖縄で地域生活を送る当事者及び支援者に対して、カリキュラムの内容やこれまでの実績を説明し、沖縄での開催の検討と見学体験に関する協力を依頼した。

第44回会議

1. 概要

日　付：2024年3月4日

方　法：zoom

参加者：千葉早耶香、櫻井こずえ、本間里美

1. 内容要旨  
   運営マニュアル作成
2. 詳細内容  
   来年度以降、カリキュラム実施対象の拡大に向けて運営体制を整備するため、事務局メンバーにより運営のマニュアルを作成した。

会議のまとめ

実施大学毎の講義内容の改善および新講師の育成を目的とした会議を行った。結果として10名の新講師を養成した。講義内容の質を落とさずに新講師を育成するためには、現講師や事務局から本カリキュラムの意義や実施の目的について詳細を直接伝えること、また、練習会の実施が必要であることが明確になった。新講師の育成体制及び事務局運営のマニュアル作成により、今後の安定的なプロジェクト実施及び拡大に向けた体制構築を進めることにつながった。

## 2.カリキュラムの実施

帝京平成大学

1. 概要

日　付：2023年8月8日~12日

場　所：帝京平成大学　ヒューマンケア学部　看護学科

参加者：看護学科の1年生　講義138名・実習20名  
ご協力いただいた当事者：講師5名　実習受け入れ13名

1. 内容要旨
   * 3日間の講義と2日間の見学体験
2. 詳細内容

■公式noteにて報告レポートを作成<https://note.com/npo_sakaiwokoete/n/n59310f6e734e>

■アンケート（受講学生13名回答）

「講義の内容は目的・目標に対して適切でしたか？」

→とてもそう思う92.3％、そう思う7.7％、あまりそう思わない0％、そう思わない0％

「講義の難易度はどうでしたか」

→とても簡単だった7.7％、簡単だった23.1％、難しかった53.8％、とても難しかった15.4％

「時間配分などの講義の進め方は適切でしたか」

→とても持てた46.2％、持てた46.2％、あまり持てなかった7.7％、持てなかった0％

「講義の内容に興味・関心は持てましたか」

→とてもあてはまる92.3%、あてはまる7.7%、あてはまらない0%、全くあてはまらない0%

自由記載のまとめ

講義について

• 非常に分かりやすく、当事者と介助者の視点の授業が印象に残った

• 全体的に楽しくて興味深いものだった

• 司会の熱量が高く想いが良く伝わってきた

見学・体験について

• 実際に臨地での体験をすることで、障がいを身近に感じることが出来て本当に良かった

• 在宅での生活を見て当事者の方と話すことが凄く貴重な体験になった

• 当事者と介助者がどのように関わっているかを見ることが出来て良かった

• 今までの障がいへの考え方ではダメだと改め直すきっかけになった

• 命を繋ぐものに触れ体験することで、看護の技術や知識の大切さをより感じた

障害のとらえ方について

• 障がいはどこにでも潜んでいて障がい(病気)を持たない人でもそれを感じる場面はあるということを知った

• 誰でも何かしらの障がい者であるという見方が出来た

グループワークの感想

• 他の当事者の方の話を聞いたり仲間や専門家の方々の意見が聞けて有意義な時間になった

• 自分の障がいについての考えを言語化するのが難しかったが、ファシリテーターの方が引き出してくれて円滑に進んだので良かった

• 病院で働いている方から、現場の視点で話が聞けてアドバイスをもらえた

• 障がい＝障がい者という固定観念があったが、障がい＝障壁のことで健常者の側にもあると知ることが出来た

課題

* 講義について
* マナバで配信された動画のように、日常が分かるものをもう少し観たかった
* 見学・体験について
* 時間があっという間で、もっとたくさん体験したかった

■アンケート（受け入れ当事者9名回答）

「カリキュラムの目的・目標は明確でしたか」

→とてもそう思う88.9％、そう思う0％、あまりそう思わない11.1％、そう思わない0％

「目標に対して見学・体験の期間は適切でしたか」

→短すぎる11.1％、ちょうど良い66.7％、長すぎる0％、もう少し時間がほしい11.1％

（自由記載：2日間あるので一日のうち4時間ずつ位でもよいかも）

「学生は見学・体験に対して積極的に取り組んでいましたか」

→とてもそう思う88.9％、そう思う11.1％、あまりそう思わない0％、そう思わない0％

「見学・体験の際に学生の態度やマナーについて、良かった点や悪かった点はありましたか。あった方はその理由も記載してください。」

* + 話し方もちゃんとしていたし清潔な服を着ていた。
  + 2名共に緊張している様子は見受けられましたが、明るく笑顔で受けておられました。 つられてこちらも笑顔になるような温かい時間でした。 質問も私と介助者にしてくださり、ミッションも積極的に参加し、訪看さんが来た日でしたので、訪看さんの話に耳を傾けて熱心に書き込んでおられた姿が印象的でした。
  + 会話がはっきりしていて、交換が持てた。
  + 将来の訪問看護を想定して積極的に在宅のことを学ぼうとしていました。
  + 悪かった点は特にありません。良かった点は何事も一生懸命なところです。水分補給やトイレなど遠慮されていないか気になりました
  + 連休で賑わうショッピングビルで、皆んなで楽しく話をしながらの外出体験だったのですが（略）学生に問題な行動が見られた。今となっては、学生の行動に対し適切に対応が出来なかったと反省しております。

「見学・体験を受け入れる際に困ったこと」

* + 特になし
  + 学生の休憩時間が取れていなかったかもしれない

「カリキュラムのご意見・ご感想」のまとめ

プログラム全体に対する肯定的な感想：

* カリキュラムが非常に良い
* 実習生の一人が地域看護師を目指すことを考えるきっかけになったとの声もありました。
* 学生たちの目が輝いており、新しいことを学ぶ喜びを感じました。
* 学生のパワーから元気をもらい、プログラムに参加してよかったという意見がありました。

改善点や提案：

* 体験を増やしても良い
* 支援者の健康に留意することの重要性や、自己選択や自己決定の大切さについてもっと説明したい
* グループワークでの効果的な方法（付箋に書き出す、グルーピングなどできるとまとめるときに楽）や、体験内容（衣服の着脱）の追加
* 障害者と社会との接点や、学生に理解を深めてほしい

日本医療大学

1. 概要

日　付：2023年9月4日～8日

場　所：日本医療大学

参加者：保健医療学部（理学療法・作業療法専攻）の1-3年生　15名  
ご協力いただいた当事者：講師6名　実習受け入れ13名

1. 内容要旨
   * 3日間の講義と2日間の見学体験
2. 詳細内容

■公式noteにて報告レポートを作成<https://note.com/npo_sakaiwokoete/n/n555c12e87662>

■アンケート（受講学生38名回答）

「講義の内容は目的・目標に対して適切でしたか？」

→とてもそう思う87.5％、そう思う0％、あまりそう思わない0％、そう思わない12.5％

「講義の難易度はどうでしたか」

→とても簡単だった25％、簡単だった0％、難しかった75％、とても難しかった0％

「時間配分などの講義の進め方は適切でしたか」

→とても持てた12.5％、持てた75％、あまり持てなかった12.5％、持てなかった0％

「講義の内容に興味・関心は持てましたか」

→とてもあてはまる100%、あてはまる0%、あてはまらない0%、全くあてはまらない0%

自由記載のまとめ

**評価**

講義について

* 重度障がい者について深く知ることが出来、たくさんのことを学べた
* 今回の人数(20人程度)で丁度良かったと思う
* 在宅での生活から制度まで詳しく知ることが出来た
* 3年になって2回目を受けてみると、理解度が上がったと感じることが出来た
* 学校では見られない実際の生活を見ることが出来て良い経験だった

見学・体験について

* 実際に在宅でどのように生活しているのかを見て、身近に感じることが出来た
* 1人で体験に行ったことが、自分の意見をより深められた
* 2日間体験して、当事者さん毎の生活の違いを見ることが出来た
* 当事者さんの地域での生活を実際に見ることはなかなか出来ることではないため、とても勉強になった
* 生活の様子を見ることが出来て、その人らしくということの大切さを改めて感じることが出来た
* 障がい者でも健常者と変わらない生活を送っていて、訪問しないと分からない事をたくさん学べた

障害のとらえ方について

* 合理的配慮が義務として一般企業にも浸透することを知ることが出来た
* 今回のことで“考えることを続ける”という考え方が生まれた
* 障がいは捉え方によっては誰でも持っているものであり、誰も持っていないものにもなるのだと思った
* 介助ありきであれば健常者と変わらないという考えは大事だと思う
* 印象的だったのは、奥さんが旦那さんのことを障がい者とは思ってないが、街で見かける人は障がい者と思っていると話していたこと

グループワークの感想

* 障がいについてこんなに長い時間をかけて考えることがなかったのでとてもためになった
* 1日目と5日目では考え方が変わり、障がいは様々なサポートがあればなくすことが出来るものだと思えるようになった
* 見学体験を通して視野が広がったからこそ考えることが出来た議題だった
* この講義を受ける前とあとでは障がいに対しての考えが明らかに変わり、今後も考え続けなければならないことだと思った
* 進行の方がいたのでグループワークが上手く進んで良かった

**課題**

講義について

* アイテム紹介の部分で専門用語が多く、理解が追いつかない場面があったのでもう少し分かりやすくしてほしい
* 時間がオーバーしすぎて予定に影響が出たので、時間の予測をしっかりしてもらいたかった
* 実習でも色々なコミュニケーション方法を体験してみたかった

■アンケート（受け入れ当事者：1名）

「カリキュラムの目的・目標は明確でしたか」

→とてもそう思う100％、そう思う0％、あまりそう思わない0％、そう思わない0％

「目標に対して見学・体験の期間は適切でしたか」

→短すぎる100％、ちょうど良い0％、長すぎる0％、もう少し時間がほしい0％

「学生は見学・体験に対して積極的に取り組んでいましたか」

→とてもそう思う100％、そう思う0％、あまりそう思わない0％、そう思わない0％

「カリキュラムのご意見・ご感想」

当事者の生活を知ってもらう事はとても良い機会でした。まだまだ重度障害者が地域で生活をするということは特別だと感じていると思いました。

東北文化学園大学

1. 概要

日　付：2023月11月3日～5日

場　所：東北文化学園大学

参加者：医療福祉学部リハビリテーション学科・看護学科　1～4年生　8名  
ご協力いただいた当事者：講師3名　実習受け入れ6名

1. 内容要旨
   * 3日間の講義と2日間の見学体験
2. 詳細内容

■公式noteにて報告レポートを作成<https://note.com/npo_sakaiwokoete/n/na2b7fc8f7da9>

■アンケート（受講学生8名回答）

「講義の内容は目的・目標に対して適切でしたか？」

→とてもそう思う87.5％、そう思う12.5％、あまりそう思わない0％、そう思わない0％

「講義の難易度はどうでしたか」

→とても簡単だった0％、簡単だった25％、難しかった75％、とても難しかった0％

「時間配分などの講義の進め方は適切でしたか」

→とてもそう思う50％、そう思う50％、あまりそう思わない12.5％、そう思わない0％

「講義の内容に興味・関心は持てましたか」

→とてもあてはまる87.5%、あてはまる12.5%、あてはまらない0%、全くあてはまらない0%

「講義の感想を自由に記載してください」

**評価**

講義について

* 初めて当事者の方と関わり話を聞くことが出来て、持っていたイメージが変わった
* 当事者の方やそこに関わっている方のお話が聞けて勉強になった
* 当事者の方の生の声が聞けて、色々な方の｢今｣を知ることが出来て良かった
* 1年生なので習っていないところもあったが、知っていることと資料を関連付けながら学ぶことが出来た

見学・体験について

* 地域の方の暮らしを見られたことで知らなかったことを知るきっかけとなり、障がい者のイメージが変わった
* 座学だけでは理解しづらい部分があったが、見学体験することで復習が出来て障がい者目線で地域を見ることが出来るようになった
* 自分とは遠くにいる人達なのだと勝手な思い込みがあったが身近なところにいるのだと驚いた
* 当事者にしか分からない大変さや人との出会いについてなどを知れて良い機会になった
* 介助者がいるという点は違うが、私と同じ人間なのだと思った

障害のとらえ方について

* 合理的配慮があれば障がいはなくなると思った
* 障がいに有無はなく、当事者も介助者も気持ちは一緒であり、障がい者は特別な人ではないことを知った
* 障がいがあっても、助けがあれば出来ないことはない

グループワークの感想

* 障がいについて話す機会がなかったため、違う学年・専攻の方々と話せて良い経験が出来た
* 3日間で考え方が変わって障がいについてより理解を深めることが出来た
* 障がいについて意見を聞くことが出来て、考え方を広げる良い機会になった
* 1日目よりも話しやすい雰囲気で、意見を否定的に捉える人がいなかったから楽しいグループワークだった
* 障がいが身近に感じられるようになった
* 今後の実習に繋がる経験が出来て、乗り越える勇気をもらえた

その他

* 楽しく充実した3日間だった
* 2回目だったが、学ぶことがたくさんあった
* 障がい者さんとの繋がりが広がって嬉しかった

**課題**

講義について

* 突然｢話し合ってください｣と言われ何を誰と話し合えばいいのか分からずに困惑したので簡潔にでも説明してほしかった

障がい者を支援する制度についてもっと知りたかった

アンケート（受け入れ当事者5名回答）

「カリキュラムの目的・目標は明確でしたか」

→とてもそう思う80％、そう思う0％、あまりそう思わない20％、そう思わない0％

「目標に対して見学・体験の期間は適切でしたか」

→短すぎる0％、ちょうど良い80％、長すぎる0％、行うことに意義があるので短すぎることはないが短い20％

「学生は見学・体験に対して積極的に取り組んでいましたか」

→とてもそう思う100％、そう思う0％、あまりそう思わない0％、そう思わない0％

「学生の様子について」

* + 生徒さんは真剣にメモを取り、学んでいました。当日は雨で、趣味の散歩を生徒さんと一緒にしたかったのですが、できなくて残念（略） 見学・体験の大半がいわゆる“障害者運動”の現場だったので、やや戸惑われたかもしれません。しかし、とても熱心に取り組まれていました。 学生の態度やマナーについては問題はなく、知りたいという気持ちが伝わり、少しでも役に立ちたいと思いました。 個人的には嬉しいこと。 腰が苦しい時に後ろから羽交締めの要領で持ち上げてくれた ありがとうございます コロナ禍よりは感染に関して少しゆるくなっているが外部からの感染に関する注意はより喚起して欲しい。

「カリキュラムのご意見・ご感想」

* + 男性の生徒さんが少ないのが残念です。 理由は、私のところは同性介助になっているからです。
  + 講義について ①マイク・スピーカーについて 特に初日の現場講師のマイクについて、拡声機能がない時間帯がありました。映像(音声)を流しながらの講師説明や、受講者の意見・回答が聞き取れず 全体化されない、講師が再度全体化する場面もあったように思います。 Zoomとの兼ね合いなど技術的なこともあるかと思いますが、発言がそのまま共 有できた方がいいように思いますので、検討いただければ幸いです。（略）日程が短縮され、一層凝縮されたように感じました。 受講者もとても熱心で、毎回のこ とながら意欲には感服いたします。 より実践的な学びを共有できる本カリキュラムは貴重なものだと思います。
  + 時間が長いかなと始まる前は思うのですが、あっという間ですね。 学生の質問は新鮮で考えさせられることも多く、自分のふりかえりになりました。 重度の障がい者でも地域で生活できると知ってもらい、自分らしく生きているのを 感じてもらったと思うので、学生に得るものが少しでもあったらと 思いました。 今年も体験に協力できる機会をいただき、とても貴重な時間になりました。 メニューをこちらで設定していたから 学生さんの試したいことなどが消化不良かも。 やはり５日か４日あると良いですね。１日目がキツキツだったと思う

杏林大学

1. 概要

日　付：2023年9月2日~10月12日（事前学習、体験学習、事後学習の3日間）

場　所：杏林大学三鷹キャンパス/当事者宅

参加者：医学部3年生 117名  
ご協力いただいた当事者：講師4名　実習受け入れ24名

1. 内容要旨
   * 事前事後学習として講義２日間、実習
2. 詳細内容
   * 公式noteにて報告レポートを作成<https://note.com/npo_sakaiwokoete/n/nc5ece83aa0d8>

■アンケート（受講学生90名回答）

「講義の内容は目的・目標に対して適切でしたか？」

→とてもそう思う64.4％、そう思う32.2％、あまりそう思わない3.3％、そう思わない０％

「講義の難易度はどうでしたか」

→とても簡単だった4.4％、簡単だった35.6％、難しかった55.6％、とても難しかった4.4％

「時間配分などの講義の進め方は適切でしたか」

→とても持てた23.3％、持てた43.3％、あまり持てなかった31.1％、持てなかった2.2％

「講義の内容に興味・関心は持てましたか」

→とてもあてはまる48.9%、あてはまる46.7%、あてはまらない3.3%、全くあてはまらない1.1%

自由記載のまとめ

**評価**

事前学習について

* 障がい者の方の素直な考えや、介助者の方の意見や工夫を知ることが出来た
* 考えれば考えるほど難しいと思ったため、今回の学びに留まらず、今後も興味を持ち学び続けることが大切だと感じた
* 体験学習の前に当事者の話を聞き、注意することや観点等が分かったため良いイメージ作りが出来て、当日のハードルが少し下がった
* 介護ではなく介助が必要なのだという話は共感できた

見学・体験について

* 自分の視野の狭さを痛感したが、新しい体験と初めての経験が出来、これからの人生の糧になった
* 当事者さん、介助者さんいずれからも暗さは感じられず、終始明るく笑顔があり、障がいのイメージを覆す有意義な時間だった
* 話を聞くだけではなく、実際に車椅子に座らせてもらうなど、ただの授業では経験できないような当事者目線の体験も出来てとても良かった
* 今回の実習で、当事者さんの芯の強さと今を楽しく明るく生きている姿に感銘を受けて、障がいの有無にかかわらず、生きていることの大切さを学べた

事後学習について

* インクルーシブについての話は盛り上がり、対策なども考えられて知識を深めることが出来た
* 班員全員がそれぞれ異なる体験をしているので、新たな考えをたくさん聞くことが出来て理解が深まった
* 社会に存在する障がいについて、物理的な障がいの考えが多く聞かれたが、法律や制度など目に見えない部分の障がいもたくさん存在していると気付かされた
* その部分に気付けたことで小さな一歩を踏み出せたように感じた

地域医療体験学習について

* 障がい者はあまり自由がないというイメージが良い意味で払拭されて、私たちと同じようにお洒落をしていて驚いた
* 生きづらさが障がいという視点は新しく、そもそも障がい者という括りは適切ではないと思えた
* 知ることも大事だが、まず興味を持つことから始まると思った
* 具体的に今すぐ行動できるかと言われたら難しいが、当事者の方々と接した経験があるというのは、自分にとって大きな財産になった
* 介助が必要なことは異なるが、自分の人生を自分なりに生きているということは私たちと変わらないのだと知った
* 社会に障害があるという考え方、表現が新鮮だった

課題や目標

* 興味を持ち続けて自学の気持ちを忘れずに、障がいについて知る努力をしたい
* 自分の中にも、優生思想があることを認識しなければいけないし、それを自覚して初めて問題を受け入れて自分の振る舞いを変えていけるのだと思う
* 私たちには障害を取り除くことは出来ないが、それを乗り越えるための手助けは出来る

感想・意見

* 自分自身がいつ当事者になるか分からない中、多方面から障がいに対する認識を改めながら歩み寄ることでインクルーシブな社会を実現出来ると考えた
* 障がい者は寝たきりというイメージから自分たちの生活とほとんど変わらないこと、介助者はその補助をしているという考えを持つことが出来た
* 当事者さんが自分たちは皆さんと一緒ですと言うことに対して、本当にその通りではないかと感じたことが1番の経験だった

**課題**

事前学習について

* 文字盤での会話は衝撃的だったため、コミュニケーション方法について深堀りしてほしい
* 書き込みをしたかったのでスライドを上げてほしかった
* 当日の課題やミッション等の説明が不足していて、聞かされてないことが多く、実習前日に焦った
* 講義時間が予定と比較してバランスが取れていない部分があり、先生によっては話し足りない様子が目立ち残念だった
* 事前に時間割を作製しているにも関わらず、それを無視して進めるのはおかしいと思った
* 特に、1人の発表者が時間を巻いてくれたのに他の発表者がそれ以上に時間を伸ばしたのは良くないと思う
* 介護の基本的な知識や役割などの説明をもっと扱ってほしかった

見学・体験について

* お話を聞いている時間が9割以上だったので、もっと介助に関わる事を体験したかった
* 見学体験について先方にあまり伝わっていなかったので、その点を改善してほしい
* 掃除ばかりだったので、もう少し介護の視点について学びたかった
* 事前連絡の不備で私の時間もそうですが、当事者にも迷惑をかけたのは良くなかった
* 時間的な割合として、説明が長かったので会話や身体を動かす時間がもう少しほしかった

事後学習について

* グループ内では雑談が多く、話し合いがあまり出来なかったのでオンラインチャットを用いた意見交換などの方が積極的に参加出来ると思った
* 長時間になるのは問題ないが、延長はしないように時間割を組んでほしい
* 休み時間が不規則だったため、トイレに行きづらかった

感想・意見

* 担当の先生すら認識していない資料や課題があり、先生と境を越えての間で連絡の齟齬があるように感じた

■アンケート（受け入れ当事者8名回答）

「カリキュラムの目的・目標は明確でしたか」

→とてもそう思う75％、そう思う25％、あまりそう思わない0％、そう思わない0％

「目標に対して見学・体験の期間は適切でしたか」

→短すぎる12・5％、ちょうど良い87.5％、長すぎる0％

（自由記載：行うことに意義があるので短すぎることはないが短い）

「学生は見学・体験に対して積極的に取り組んでいましたか」

→とてもそう思う50％、そう思う37.5％、あまりそう思わない0％、そう思わない12.5％

自由記載のまとめ

参加者による学生の評価：

* 学生たちの質問や体験への積極的な姿勢、礼儀正しさや学習意欲、コミュニケーション能力に感心
* 「障害があるのにポジティブで素敵です！」と言われたが、障害者＝ポジティブであることが良いと感じて いるのかな？と気になった
* 一部の学生が遠慮し過ぎる傾向が見られ、これは障害者との交流が未経験であることが原因かもしれないとの指摘があります。
* 一部の学生の態度面での問題（居眠りをしていた、感染対策の不備）の指摘

感想と今後の提案：

* 体験内容を増やすべきかどうか、またどのような体験が有効かについての検討が必要
* 大変充実した内容で、学生にとって貴重な経験となっているので継続してほしい

東京都介護福祉士会現職者講習会

1. 概要

日　付：2024年2月21日~2月22日（事前学習、体験学習の2日間）

場　所：日本福祉教育専門学校/当事者宅

参加者：介護福祉士5名  
ご協力いただいた当事者：講師2名　実習受け入れ7名

1. 内容要旨

事前学習として講義1日間、実習と実習後にオンラインでのワークを実施

1. 詳細内容

公式noteにて報告レポートを作成 <https://note.com/npo_sakaiwokoete/n/n8841ff5f1cfb>

講義時の感想：

・いつもやっていることではあるが意識しないでやっていることが多いので改めて学ぶ機会になった。

・利用者さんの気持ちを知ることは大事だなと思っていた。

・外国でその土地の言葉がわからないことや外国人排斥的なムーブといった障壁を感じて、日本語教師になった。社会モデルはそれとリンクしていた。

・施設の中でも介助ってちがう。介護と介助が違うなんて考えたことなかった。利用者さんの気持ちに寄り添うのもできずに日々が過ぎていく。今日のことは日々に使っていきたい。

課題：

・仕事との兼ね合いで連続した日数の参加が難しい

カリキュラム実施のまとめ

参加した学生、協力を得た当事者ともに本カリキュラムへ肯定的な評価をしており、今後も継続してプロジェクトを実施する意義が明らかになった。一方で、実施期間やZoomと対面のハイブリッド開催における問題、実習における当事者からの体験内容に関する課題の指摘があった。本プロジェクトは実施大学の体制に合わせて内容を適宜変更しているため、今後限られた期間の中でより充実した内容とするために、事前に実施大学の教員からの要望と団体として重要としている点をすり合わせることが必要である。また、現職者を対象とした実施の際には業務との兼ね合いで連続した期間での参加は難しく、日程などの修正の必要性がある。今後は当事者に対して実習を受け入れる上でのサポートとなる資料を作成する必要性についても示された。

## 3.ネットワーク拡大説明会

後援：DPI日本会議

1. 概要

日　付：2023年12月2日

方　法：zoom

1. 内容要旨

今後のカリキュラムにおける学生の見学体験実習の受け入れ先拡大のための説明会を実施した。

1. 詳細内容

2020年度から実施している本プロジェクトの実施の経緯やこれまでの実施施設、実施内容の変遷の過程、学生や当事者へのアンケート結果の共有を行った。また、特に実習を受け入れる上での注意などに関して質疑応答を実施した。

後援：全国自立生活センター（JIL）

1. 概要

日　付：2023年12月20日

方　法：zoom/対面

1. 内容要旨

団体および本プロジェクトの説明を行い、質疑応答を実施した。

1. 詳細内容

2020年度から実施している本プロジェクトの実施の経緯やこれまでの実施施設、実施内容の変遷の過程、学生や当事者へのアンケート結果の共有を行った。

質疑応答では本プロジェクトに参加した当事者による感想や意見の共有、また、見学体験実習の受け入れに関する質問に回答した。

ネットワーク拡大説明会実施のまとめ

実習の受け入れ候補となる当事者を拡大することにつながった。特に2024年度に新たに実施する予定である弘前大学での実習に向けて、CIL青森との関係性を構築することになった。

# Ⅲ．まとめ

今年度はカリキュラム実施拡大に向けて、①講師、見学・体験受け入れ当事者増員のための説明会と勉強会の開催、②モデルカリキュラムの実施と連携構築、③カリキュラム開催ノウハウのパッケージ化を中心に活動した。①について、新講師10名を育成した。また、新規大学での開催もあり、新たに24名当事者とのコンタクトが可能となった。②は継続3校、新規1校で開催し、継続校では単位化に向けた具体的なカリキュラム構成の調整なども行った。新規実施校においてもカリキュラムの評価は高く、今後も継続する必要性が明確になった。③は講師向けの教則本を新講師の育成時に活用した。また、事務局運営のマニュアルも作成することで波及のための準備も行うことができた。今後の課題としては、引き続き新講師の育成や事務局運営のできる人材の確保、カリキュラムの内容の改善があげられる。

＞参考：事務局運営マニュアル（2024年開催予定の杏林大学を例に記載）



